

研究テーマ 『9ヵ年をつないだ小中連携教育推進による学力向上』

～ 深く考え、豊かに表現する言語活動の充実をめざして ～

1. 主題設定の理由

- 本校は、唐津市の南、標高200Mの上場台地の一角にあり、豊かな緑に恵まれた素晴らしい自然環境の中にある。小学校4クラス（複式学級2）、児童数47名、中学校3クラス、生徒数22名、育友会会員数254名、教職員小学校6名、中学校10名の小中併設校である。本校区の家庭のほとんどが兼業農家である。教育によせる校区民の期待は大きく、子どもは「校区の宝」として校区民みんなで育てようとする気風が強く残っている。
- 地域の背景の中において、児童・生徒は、全般に明るく素直で、礼儀正しく情緒も安定し、集団生活も落ち着いている。しかし、義務教育9ヵ年間変わらない人間関係の中で生活しているため、刺激のなさや序列化がある。このことから、自ら進んで取り組む態度や自分の考えをもってたくましく生きる力が育っているとは言えない。また、良い意味での競争心や自分なりの主義主張を抑えるため、それが、学習意欲や学力向上を阻害する一因とも考えられる。
- 本校は、佐賀県及び唐津市の教育方針に則り、児童の特性と地域の実態を踏まえて、「活気と活力のある学校づくり」をめざしている。社会の形成者として必要な基本的資質を養い、主体的に活動する個性豊かな児童・生徒を育成するためには、子どもにとって学習内容がよく分かり、明るく楽しい活気あふれる学校づくりが求められる。また、一人ひとりの児童・生徒に活力をもたせることが、学校諸活動に意欲的に取り組む素地となる。そして、学校生活を送る場である学校が活力をもつと考える。また、本校の学校スローガンは、「夢を語って、夢を形に」である。人が生きる上で、夢を持つ大切さについて語る人は多い。しかしながら、学校の教育活動で夢を育むカリキュラムを創造している学校はほとんどない。夢をもった生き方をさせることが、学校の諸活動にチャレンジングに取り組む原動力になると考える。目的意識をもった学校生活の中で、成功体験や失敗体験が、生きて働く経験となり、21世紀をたくましく生き抜く力の素地を培うはずである。
- 本校のミッションは、小中併設校という利点を活用した小中連携である。そこで、真の小中連携を推進するために、平成22年度は、小中連携推進12のプランを策定し、それを具体化した小中連携アクションプランを3ヵ年計画で推進していくことに着手したところである。このプランを実践研究し、成果と課題を明らかにすることが、中1ギャップを解消し、小中教職員の意識改革と教師力の向上につながると考える。

さらに、9ヵ年を見通した小中連携を推進していくには、言語活動の充実が重要な課題となる。言語は、知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤となる。このことは、児童・生徒の発達段階に応じた自己の考えを持ち、周囲の考えを取り入れ、言語として表現する力を育むことであり、心豊かな生活習慣の構築につながっていくと考える。

また、表現力を活かした授業をめざす点でも、言語活動の充実が大切になる。特に少人数での授業形態は、教師主動型に陥りやすく、教え込みの傾向にあり、児童・生徒が一方的に発進する側になることが多い。そこを一步深めて、表現を豊かにする手立てを工夫し、お互いに発進した内容について感想を交流したり、新たに知り得たことを全体で確認したりする

「練り合い」の段階まで進めていく「授業づくり」が求められてくる。

この言語活動の充実を9年間という長いスパンで継続的に育成すれば、より成果が上がる
と考える。また、小中の教員によるTT授業や出授業、合同授業などを行うことで多様な学
習パターンや活動が可能となり、より一層、主体的で意欲を持った児童・生徒を育むことが
できるであろうと考え、本主題を設定し、研究を進めることにした

2. 研究構想

(1) 小中連携12のプラン

1) 教育課題の解決に向け授業型づくり

- ① 9年間を発達段階に応じて区切り、教育目標を設定
 - ・23年度以降の取り組み
- ② 9年間を貫くカリキュラムの作成
 - ・23年度以降の取り組み
- ③ 9年間における各教科、領域のゴールの共有化
 - ・23年度以降の取り組み
- ④ 小学校の学習履歴の把握
 - ～各教科の系統性の研究
 - 研究授業の際には、教材分析の中に織り交ぜながら研究していく。
(指導案に明記する)
- ⑤ 小中協働による小学校の授業研究 (~~TT~~授業・乗り入れ授業等)
 - ～校内研の授業研究会にて探求する。
 - 23年度は中学校から出授業が多くなるので、授業研究会が必要になる。

2) 児童生徒の把握

- ⑥ 9年間の児童・生徒理解の共有化
 - ～子ども理解研
 - 子ども理解研については、特に問題を呈する児童の分析は行えるが、各児童・生
徒の学力面の分析については、別途研究分析する必要がある。

3) 研 修

- ⑦ 小中連携推進委員会の設置
 - ～校内研究(全体会)の事前打ち合わせを実施する。
 - 言語活動についてより深まりのある研究にすするため、先進的役割を持つ。
- ⑧ 小中連携フォーラム
 - ～他の一貫校の取り組みの紹介や交流。
 - 一貫校のあり方について、内容的にどういう事ができるのか、どういうことをし
ていくできか、本校独自の研究の方向性を出した上で、全体の取り組みを考えて
いく。
- ⑨ 合同校内研究の実施 ～毎年実施中

4) 学習活動

- ⑩ 9年間を貫く学習活動の設定

～小学校「暗唱タイム」中学校「スピーチタイム」「総合的な学習の時間」
→これまでの積み上げを活かしながら、実践的に積み上げていくことができる。

⑪ピアサポートの活動開発

～小中児童生徒が合同で行事を行う。(体育大会・文化祭)

5) 年間行事

⑫教育課程編成の見直し

～年間をふりかえ

(2) 研究部会

学力向上部会	教育活動部会
<p><言語活動による授業づくり> ○授業づくり(授業型) ☆言語活動の研究 ・小中連携の授業型 ・指導演 ☆授業の振り返り ○学力向上 ☆学習状況調査の分析・対策・活用</p> <p>○研修会の計画 ・言語活動(授業実践) ☆スーパーティーチャーの活用 ・小中連携 ・授業研 ・研修会参加 ・先進校視察</p>	<p><言語活動による教育活動> ○小中連携の実践取組 ・言語活動の研究 ・スピーチ集会 ・総合的な学習の時間 ・新聞の活用 ○基礎学力の定着 ・補充学習の充実 ☆ (評価テストの活用) (基礎学力テスト対策) ☆家庭学習の質の向上 ○研修会の計画 ・言語活動(活動実践) ・家庭学習の充実 ・研修会参加 ・先進校視察</p>

☆・・・・・・県の学力向上にかかわる施策

(3) 研究計画

4月	<p>① 研究推進委員会(今年度の研究の方向性の決定)【4月6日】 ② 全体会—研究テーマ及び組織、活動の概要の提案と承認【4月13日】 ③ 研究組織のメンバーの確定 ④ 各研究部会(1部会・2部会)の目標及び活動内容案の作成【 [学力向上部会] (ア) 全体授業研究会の授業者の決定 (イ) 提案授業の時期を計画、決定(全員1回の公開授業)</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

8月末	<p>(ウ) 授業における言語活動の実践プランの作成等 (エ) 授業改善の工夫 (各部会提案授業への参加と意見交換) (オ) 授業研究会における授業研究計画・作成に各部で協力体制を作る。 (カ) 各授業研の指導計画の作成・検討 (キ) 教材研究・指導法研究のグループ研、及び資料等の作成 (ク) 言語活動を取り入れた授業作りに関する講師招聘等</p> <p>[教育活動部会] (A) 日常活動における言語活動の取り組みの洗い直し (B) 言語活動に関する講師招聘等のプラン作成 (C) 家庭学習の定着推進のための方策検討</p>
9月以降	<p>[学力向上部会] (ケ) 「言語活動を重視した」全体授業研の指導案の検討 (コ) 指導計画の検討・実践 (サ) 授業の準備 (シ) 授業研後の後鑑会とまとめ</p> <p>[教育活動部会] (D) 小・中連携の実践的な取り組みの企画、運営等の資料等の作成 (E) 日常の教育活動における言語活動への取り組みの実践報告の作成</p> <p>⑤ 全体会 (ア) 全校授業研究会 ～研究授業と後鑑会、研究協議 (10月～2月までに2回) (イ) 各部会の実践報告会 (10月～2月までに2回)</p>
2月末	
3月	☆ 研究のまとめ (1年間の各グループの研究概要) …成果・課題